

第5回リニアまちづくり構想市民委員会 会議録（要約）

平成25年6月3日（月）

午前10時から午前12時

恵那市防災センター研修室

【会議次第】

市長あいさつ

委員会あいさつ

新委員の紹介

[協議・報告事項]

1. リニアまちづくり構想中間報告について
 - (1) 報告書の内容について
 - (2) 広報等による公表について
2. 平成25年度の委員会のスケジュールについて
 - (1) 委員会スケジュール
3. その他
 - (1) 岐阜県の状況について
 - (2) 中津川市の状況について
 - (3) JR 東海による中央新幹線計画の説明会について
 - (4) 実験線見学会の開催について
 - (5) リニアまちづくり講演会の開催について
 - (6) 地域の動きについて
 - (7) その他

事務局	はじめに、大塩副市長よりご挨拶を頂く。
副市長あいさつ	<p>平成24年度中に4回の会議、そしてグループ会議を3～4回開催し、今回リニアまちづくり構想の中間報告としてまとめて頂いた。本日その報告書の内容の確認として、リニア開業により市民の暮らし、あるいは目指すべき将来像や境遇について議論して頂く。</p> <p>そして、岐阜県で考えられている状況も少しずつ鮮明になってきたこともあるため、リニア駅周辺アクセス整備のイメージについて岐阜県から説明して頂くほか、中津川市においても構想を作成されており、まもなくパブリックコメントの段階と聞いている。本日そのことについても説明していただけると聞いているので宜しくお願ひしたい。</p> <p>是非、そういった内容をお聞き頂いてながら、本年12月頃には恵那市としての構想を取りまとめるため、今後とも委員の皆さんには多くの</p>

	ご支援を頂いて構想をまとめて行きたいと考えている。
磯部委員長	中部大学の磯部です。昨年度は、多くの議論をして頂いた。今年も宜しくお願いしたい。
事務局	今年度の委員として、「まちづくり市民協会駒宮博男氏」、「(社) 恵那青年会議所吉村将明氏」、「岐阜県・リニア推進事務所長朝倉和仁氏」の3名が新たな委員として参加して頂く。
事務局	本日の協議報告事項といたしましては、「リニアまちづくり構想中間報告について」、「平成25年度の委員会スケジュールについて」、「その他」の3項目である。 報告事項説明後の議事進行も引き続き磯部委員長にお願いする。
事務局	まず「リニア開業により変わる恵那市民の暮らし」についてご説明させていただきます。 まず1つ目は、「所要時間の短縮により恵那から全国へ、さらには世界への旅行」、それから2つ目は、「首都圏で暮らす人が深夜や早朝などいつでも恵那に訪れることができるように」、それから3つ目は、「ほんの十数分で名古屋との行き来ができるようになり、名古屋がより近くに」、それから4つ目は、「所要時間の短縮や都市部よりも比較的安価な土地を活用したビジネスの可能性が広がる」、それから5つ目は、「自然の中でのオフィスを構える会社が増え、ビジネスの活性化が地域を活性化する」、そして6つ目は、「便利な都会での暮らし、自然豊かな田舎での暮らしを選択できるように」の以上6点をリニア開業により変わる恵那市民の暮らしとしてこの中間報告に載せていきたいと考えている。 それから、「目指すべき将来像」として、「暮らしのびのび、遊びウキウキ、仕事すいすい、わくわく恵那！」そして副題で「時速500kmでつながる ひと、まち、未来」というように提案させていただきます。 こちらについては、当委員会の若いグループで4回ほど協議し、将来像を考えた。
委員	将来像を語るべくキャッチフレーズを4回にわたって委員会を開催させていただきます。 その中で出たのがこの構想、キャッチフレーズだが、はたして対外的に言うべきものか、対内的に考えるものなのかという視点があった。 前回までの会議であがったキーワードをまとめた言葉がある。 「受け入れやすい」、「西へのアクセスも便利」、「災害時の安全性」、「里山、原風景」、「都会とのアクセス(週末ふる里帰り、日帰り田舎体験)」、「近代化しない」、「ITの整った街」、「ちょうどいい」、「いいとこどり」、「誇りある田舎暮らし」という言葉に今まで出たいろいろな言葉が集約されているのではないかとということでまとめさせていただきます。 考察点について、先ほど出た対外的とは、恵那のいいところをアピー

ルすることである。市外の人に向け、リニアが通る恵那の魅力をアピールする方向。転じて、市民にこんなまちを目指そうというものである。対内的については、市民の意識を高め、受け入れ体制を強化することである。ターゲットは恵那の市民に向けて。リニア開通に向けて「目指すべき将来像」をかかげ、皆でよいまちをつくっていくための指針になる言葉の開発。ということでまとめさせて頂いた。

どちらでいくかということが作っていく中でなかなか難しいことではあるが同じような視点の中で共通して出せる言葉を探そうということで進めていった。

その会議の中で、最終的に各委員さんの意見を集約して最終キーワードとして出た言葉がある。「遊びわくわく、仕事すいすい、生活のびのび」、「おもてなし」、「リニアでつなげる まち・ひと・こころ」、「リニア時代の新しいふるさとづくり」、「遊び、仕事、暮らし。いいとこどりのまち」、こんなような言葉がこの会議の最終段階で出てきた言葉である。

以上の案で最終的な絞込みを行った。そして決まったのが「暮らしのびのび 遊びウキウキ 仕事すいすい わくわく恵那！（時速500kmでつながる ひと まち 未来）」というキーワードである。内容としては「暮らしのびのび 遊びウキウキ 仕事すいすい」の中に、今回施策がいろいろ盛り込まれているということである。

そして最後に、どうしても最終的には市民がこの構想を考えなければならぬということ、最後に加えた言葉が【わくわく恵那】という言葉を加えた。そんな構想になってほしいという願いを込め「暮らしのびのび 遊びウキウキ 仕事すいすい わくわく恵那！」とした。

本来だと、リニアにつながるという言葉で表現をしていたが、時速500kmでつながるひと・まち・未来ということで、ここでリニアのスピード感を少し盛り込み、言葉としてのリニアではなくて、本当にこのスピードを感じてまちづくりをして行かなければならないと思い、そこに言葉を集約させて頂いた。

竹内
アドバイザー

報告書が一体どういう性格のものなのかということである。これは皆さん何度も集まり、こういった議論をして、議論をした結果を市民に向けて発表するものである。何度も集まり一生懸命考えて、議論して頂いたこの結果がこの程度のものなのか、という風に言われると思う。それでいいのですか？という話である。

何を申し上げたいかと言うと、「リニア開業により変わる恵那市民の暮らし」に書いてあるが、これはその上の方に書いてあることの整理のし直しでしかなく、この報告を投げかけられた市民が、これで暮らしがどういう風になるかわかりますか？という事である。

この文章読んでみると、委員の皆さんたちが本当に自分の暮らしにど

う影響を与えるかということを一生涯イメージしてまとめて下さったようには見えない。これから議論していく余地があると思う。

皆さんが市民に対して報告するのがこの報告書なので、自信を持って、あるいは充分自信はないけれど今のところはここまでだ、というある程度の達成感を持って市民にこの報告書を投げかけることができるかどうかという観点から、今日ここで皆さんが黙っておられるとそのままこれが市民に出て行くわけである。それでよろしいのか？ということを変更して問いかけたいと私は思っている。

あとキャッチフレーズの問題に関して言えば、せっかく大変な手続きを取って、議論をして、こういう風にまとめられた委員さんには大変申し訳ないが、このキャッチフレーズの【恵那】というところをほかの町の名前に替えてみると、どこでも成立するように思う。

今日の文化現象、文化の状況というのは、象徴的だと思うが、格好良くというか今日の流行に合わせてまとめるとこういう風になるという典型例だと思う。

やはり地域の良さ、自分たちの胸を張ってこの地域を、地域独特のものとしてどうまとめていくかという姿勢が、それをリニアが出来ることをきっかけにどうやって育てて行くかっていうことをこのスローガンの中で出てこないといけないと思う。

報告書の47ページのところに、このキャッチフレーズの下にリードと言うのか解説があるが、非常に丁寧に書いてある。ここに書いてあることは大賛成である。これがキャッチフレーズになっているのかどうか、という問題である。

いずれにしても、この報告書を取りまとめているという委員会の位置づけと、その中でまだ中間報告であるという特性をよく解釈して文章をまとめていく必要があるんじゃないかと思う。すみませんちょっと辛口な話で。

磯部委員長	私が思うには、まとめ過ぎちゃって、平均化されすぎているというようなところがあるのかなと思う。個性がそのままうまく表に伝わるのは結構難しいことだが、そういった努力も必要ではないかと、竹内先生の横で聞いていて感じた。やはり、誰かが主体的に動かなければならない。誰が動いていくかという議論が今後は必要である。
-------	---

事務局	今話にあったように、中間的な考え方がこの報告書で出されている。これが最終報告ではないということで、今後の進め方があり、その中に市民の協力が必要ではあるが、どういう協力を求めるのかということが明記してないので、その部分を明記しておくことが必要ではないかなと思う。
-----	--

磯部委員長	現状では【仮】という言葉はどこかに付けておくといいとも思う。
-------	--------------------------------

竹内 アドバイザー	私は、キャッチフレーズを独立して使わない方が良いと思う。リード文がいつも一緒に伴って動いてくれれば良いと。
--------------	---

磯部委員長	概要版と本編との関係はどうやって使っていくのでしょうか？中間とりまとめが最終版なのか概要版なのか、どういう風に活用されるかで、責任の扱い方が違うかなと思うが、その辺りはどうなのでしょう？
事務局	広報やHP等そういったところに出していく時には、こちらのリードを合わせて説明として付けて行きたいと考えている。
委員	キャッチフレーズというのはすごく難しいと思う。日本全国の人がある言葉を使って恵那をイメージする言葉が何かあるか。ある単語を使って日本全国の人が恵那をイメージできる言葉を考えるというのははっきり言って無理なのではないかと思う。リード文というものがあつたのですが、ああいったものによる補完というのは当然必要である。それから恵那という言葉他を置き換えるというのは出来ない。それから、恵那という言葉は使わなければいけないという風に思いますので、出来るだけ皆さん方が考えて頂いた議論の中身はその言葉に付随して表れてくるようにすればいいと思う。
委員	特にわくわくして人が集まる、わくわくするということは、未来がすごく開けると。やっぱり「わくわくする恵那」というのを強調してこれからはいろんなところで動いていけたらいいかなと思った。
委員	私は竹内先生の話聞いて、「恵那」の言葉のところを変えればどこでも通用するかと思う。もっと恵那の地について考えた方がいいのではないかと思う。中間報告にも書いてあるが「広域連携」という言葉が表すように、連携するところはきちんと連携する。そういうことも大事だと思う。まず、隣を知るということも大事であり、隣を知るということで、はじめて恵那の歴史と文化の匂いを感じることが出来るのではないかと考えている。
委員	出来上がったキャッチコピーはすごくいいものだと私は思う。ただ、あまりにも出来すぎているので普通の市民からすれば、夢物語というか抽象的というか、そういう他人事のような捉えられ方をされるのではないかと思う。「恵那」がこうなるというのを深く掘り下げながら次の課題に取り組むべきだと考えている。
磯部委員長	今回のリニアは、いわば東海道新幹線の次の中山道新幹線である。そうすると昔からの中山道の歴史が反映されておかしくないという意見も有りなのかなと思う。もう少し中身で「ああ、だから恵那なんだな」といったキーワードがメインのところに、「恵那」という地名だけでなく、もう少し違うところに表れてくるとより良くなるのかなと感じる。
委員	いろいろな意見ありがとうございます。確かに言葉を整理して行くと、難しい局面に陥り、例えば歴史・文化という言葉はいろいろな言葉をつなげればそれらしい内容がわかってくると思うのだが、「歴史文化を育むまち」とすればこれも全国どこにでもあると思う。自然が豊か、空気がおいしい、山々が連なる、いろんな表現はあると思うのだが、これは正

直、本当に難しいところである。言葉の中に思う人々の気持ちという部分、そこに響かないかなということである。そのような結果、現時点のキャッチフレーズの狙いとしては子供が見てもわかる言葉がいいのではというところに落ち着いている。なかなか一言で今の恵那の状態とか、恵那の目指すべき姿とか、そういったところを一言で表現するのは、困難であった。「すばらしい田舎」とか「日本のふるさと」とか途中いろんなアイデアがあったが、どれを取ってみても行く着くところは恵那に限定されるべきことというのも出てきてしまう。

また、精査していただければと思う。

磯部委員長

あくまでも中間報告であってこれからも形が変わりうると。この2行のキャッチフレーズだけの一人歩きというのは、まだ早いのかなということだと思う。

竹内
アドバイザー

皆さんいろいろ意見を言って頂いて。これを引き出すためにわざと過激に言った。やはり、歴史文化、歴史の流れが重要である。特に恵那という地名の重みを皆さん感じてほしい。ここ恵那市には歴史の流れがあるのである。「わくわく恵那」という感覚が大事だという意見、私もその通りだと思う。ただ、何を言いたいかと言いますと、明治以降の近代化の歴史の中でここはダムに象徴される、近代化をずいぶんと先取りした町でもある。路面電車もあった。

そういう近代における繁栄というの踏まえて欲しい。そのなかにわくわくしたものを感ずる、それがリニアでもっとわくわくなるんだというのを表現できればと。

中津川市で同じようなキャッチフレーズの議論をやっていたときに私の提案として「今日も我らの夢を呼ぶ中津川」というのを提案したが、見事に市民の委員から全部バツを付けられた。

青い山脈というのは前にもお話したのだがやっぱり恵那である。しかも青い山脈というのは青い山があるというだけではなく、青春を表す言葉でわくわくさがここには入っているのである。

今なぜこんな話をしたかということ私は青い山脈のイメージをモチーフとしては恵那で表現すべきだったなと思ったのである。

磯部委員長

いろいろ恵那を表す言葉がありますし、歴史もありますがこれからの恵那の将来像である。特に若い人がどう感じるかというところが一番大事かなと思うので、この会議としてはいろいろと報告を受けてまとめる。ですからキャッチフレーズを最終決定とするのは早い段階かなと思う。まだ、仮のものということでご理解頂ければなと思う。

では次の広報等による公表の次第に移りたいと思う。

事務局

この委員会の活動内容として中間的な報告がまとまったということで7月1日付けの広報えなに現在まとまりつつある構想の中身を載せていきたいと思う。

磯部委員長	平成25年度の委員会スケジュールについて説明をお願いします。
事務局および中央コンサルタンツ(株)より資料説明	
磯部委員長	続きまして、「その他」という次第にいきたいと思う。 これまでのところで委員の皆さんの方から、何かご質問はないか？
委員	岐阜県の方にお聞きしたいのだが、中央道と濃飛横断自動車道というのはジャンクションでつながる、それからリニアの岐阜県駅のところにはインターチェンジが出来る。中央道はジャンクションでつなげる、リニア岐阜県駅にはインターチェンジが出来ると捉えている。そうすると19号との繋がりがどうなるかは別としても、これが優先順位第一位の計画だと捉えてよいか？
リニア推進事務所	濃飛横断道路については、土木事務所の方で進めている。新聞等で見ると限りはアクセス道路としての利便性を考えると、中央自動車道との併設というのはやはり必要と思うが、これらはNEXCOと技術的な面で協議していくような報道がなされている。この濃飛横断だが、基本的には無料の高規格道路となるので、リニア駅への進入というのは一番近くから降りていくのが合理的な設計ではと考えている。
竹内 アドバイザー	それで、その先の中央道との接続について、今説明いただいたように無料の道路ですから料金所がある。19号と接続するので19号のインターというか、ランプウェイと料金所を介して中央道に繋ぐところはネクスコとの調整事項である。ただし、今の質問の一番大事なところの19号線との繋ぎについては、確保しているという事である。
委員	JRが秋に発表するという計画についてだが、線形が図上で高い精度で示したものの、例えば1/500だとかそういった精度の図面が示されると理解してよいか？
リニア推進事務所	JRさんの方にも私どもも地元への説明もあるので、早いところ情報を欲しいと常々要望しているのだが、正直どの程度の精度のものをというのは把握していない。
磯部委員長	もう場所を決めておかないと後々のスケジュールから勘案したときにもう間に合わないのではないかと思う。
竹内 アドバイザー	秋は環境アセスメントの手続きとして準備書が公開される。それについて環境・行政側が調整をして、最終報告書が来年春に出る。その最終報告書の間を持って具体的な線まで示してしまうと、それが全部修正ということになるため、準備書から最終報告書へ動く過程ではじめからこうでしたよと言える余裕はどうだろうと思う。
委員	エネルギーをどこから供給するのか？環境によっては、沿線住民だけでなく他の地域からも供給しないとどうしようもないかなと私は思う。そういうものが環境影響評価に入っているかいないのかが知りたい。

竹内 アドバイザー	この前の説明会でＪＲが説明している。エネルギー源、電源の問題については中電・東電・北電の供給計画の中で問題なく処理できると言っている。発電総量を比べると、たいした問題ではない。
磯部委員長	その他よろしいか。無い様なので進行を事務局へお返しする。
事務局	閉会にあたり、副委員長、一言お願いする。
委員	各県での説明会が終わった後にＪＲのホームページでその質疑の内容あるいは回答の内容、あるいは会合の内容についてホームページにアップするというような話があったかと覚えているので、一度ご覧頂ければと思います。
事務局	会議は以上になります。
